宋の詩壇の巨星として輝いた蘇東坡について、蘇門四学士のひとり黄庭堅は、特に嶺南の東坡と「和陶詩」にふれて次のように詠じて、師を称え偲んでいる。

跋子瞻和陶詩　　子瞻の和陶詩に跋す　　黄庭堅

崇寧元年（一一〇二）頃の作　五言古詩　平声支韻・上声紙韻

1 子瞻謫嶺南　　子瞻 嶺南に謫せられ
2 時宰欲殺之　　時宰 之を殺さんと欲す
3 飽喫恵州飯　　飽くまで喫う 恵州の飯
4 細和淵明詩　　細かに和す 淵明の詩
5 彭澤千載人　　彭沢は 千載の人
6 東坡百世士　　東坡は 百世の士
7 出處雖不同　　出処 同じからずと雖も
8 風味乃相似　　風味 乃ち相似たり

【解釈】

蘇東坡先生が嶺南に流されたのは、時の宰相が先生を亡き者にしようとしたからだ。ところが先生は、恵州の飯をたらふく食べ、細かく淵明の詩に唱和するという生活ぶりであった。淵明は千年の後にも名声を残す人物、蘇先生も百世の後までたたえられる人である。淵明は隠遁し先生は宮仕えを続け、生き方は違っていたが、その性格には相通ずるものがあるのだ。

石川忠久「蘇東坡一〇〇選」より抄出